

調 査 研 修 報 告 書 (議 員 用)

報告者：横路政之 ㊟

実施場所：三笠高校	実施日：平成 28 年 5 月 31 日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>・庄原市には、県立高校が 4 校あるが、全校生徒 80 名以下の状態が 3 年続けば、合併などの改革を行うことが広島県から示唆されている。特色ある学校に変わらないと、学校の存続自体がどうなるか分からない。思い切った決断で危機を乗り越えた学校を視察した。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>・北海道は 2011 年度末での廃校を決めていたが、三笠市で 1 年あまりの検討の末、同校を道から市へ移管し、普通科から地域の特色である「食」を生かした食物調理科にあらためた。</p> <p>・北海道全域から志のある生徒が集まっている。</p> <p>・授業風景を見ても、すべての生徒が真剣であり、意欲のない生徒はいない。</p> <p>・高校独自の料理イベントなど積極的な地域への貢献により、地域の活性化がなされている。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>・普通科高校がいけないというわけでは決してないが、特色を出した高校にしたことで、生徒が北海道中からやってくるという事実を目の当たりにすると、特色を出さないと少子化が進む中では高校の維持はますます困難になっていくと思う。具体的に何を特色として打ち出すかは一言では言えないが、高校存続に向けてさらなる取り組みを、一丸となって進めていきたい。</p>	

調 査 研 修 報 告 書 (議 員 用)

報告者：横路政之 ㊦

実施場所：おといねっぶ美術工芸高校・音威子府村	実施日：平成 28 年 6 月 1 日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄原市には、県立高校が 4 校あるが、全校生徒 80 名以下の状態が 3 年続けば、合併などの改革を行うことが広島県から示唆されている。特色ある学校に変わらないと、学校の存続自体がどうなるか分からない。思い切った決断で危機を乗り切った学校を視察した。 （三笠高校視察と同じ視点。） ・首長の考え等を聞いてみたい。 	
<p>■参考とすべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口 800 人余りの村であるが、この高校を中心にした村づくりをしている。 ・北海道以外からも生徒が集まっている。 ・「なぜ貴重な予算を他町村の子供に使うのか？」「地元の子供が進学しない高校に予算をかけ過ぎる」など地元住民の意見の対立が生まれる中、生徒がだれにでも、大きな声でしっかりと挨拶すること、また、村民運動会への全校参加などを通じて、「我が子、我が孫」のように思われており、住民意識の変化とともに地域の活性化に貢献できている。 ・美術、工芸は潜在的なニーズがあると思うが、その分野に特化させることで成功している。（生徒に占める女子の割合が非常に高い。） 	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科高校がいけないというわけでは決してないが、特色を出した高校にしたことで、生徒が北海道中からやってくるという事実を目の当たりにすると、特色を出さないと少子化が進む中では高校の維持はますます困難になっていくと思う。具体的に何を特色として打ち出すかは一言では言えないが、高校存続に向けてさらなる取り組みを、一丸となって進めていきたい。 ※この項の思いは、三笠高校と同じである。 ・首長との意見交換の中で感じたのは、危機感である。4000 人余りいた人口が、800 人余りに激減である。生徒が集まる学校づくりは、この危機感から出発したのではないかと感じられた。 	